

# The TAR TUNNEL

## タール・トンネル

アイアンブリッジ峡谷の穏やかな丘の地中には、貴重な天然資源が眠っていました。タール・トンネルの建設中、壁や水溜りから粘り気のある黒いビチューメンが自然に染み出してきたのです。

1786年10月、地元で製鉄業を営んでいたウィリアム・レイノルズが、セヴァーン川沿いの牧草地とブリスツ・ヒルの坑道を結ぶトンネルの建設を始めました。トンネルは主にレンガ造りで、鉱山から石炭を運ぶ水路として建設されました。



しかし、トンネルを約 300 ヤード (約 275 m) 掘ったところで、労働者たちは粘り気のあるタール、正確には天然のビチューメンを掘り当てました。ウィリアム・レイノルズはすぐに、この発見には科学的そして商業的に大きな可能性があると考えました。そしてビチューメンを井戸に溜めてトンネル口に運搬し、大釜で煮沸して材木を保存するためのピッチに加工しました。また「天然タール」は、ランプの燃料やニスに加工したり、薬効のある「ブリティッシュ・オイル」に加工してリウマチや皮膚病の治療に使用したりしました。

発見当初はビチューメンの生産量は週に 4,500 ガロン (約 1 万 7,000 リットル) でしたが、徐々に減少し、1820 年代には年間わずか 10 バレル (約 1,600 リットル) に低下し、1840 年代にはタールの販売が停止されました。1847 年にはトンネルの入口に人家が建ち、その後は、貯蔵室のほうまで家が建ち並ぶようになりました。

タール・トンネル内に実際に水路があったかどうかは定かではありませんが、トンネルはブリスツ・ヒルの鉱山から石炭を運搬し、また鉱山の排水および換気を行うために使用されました。1790 年代には、全長約 1,100 ヤード (約 1,006 m) との記録があり、これはブリスツ・ヒルにある鉱山の上部に達していたこととなります。地元の鉱夫たちの間では、トンネルがマデレイのはるか北にある鉱山まで続いていたと信じられています。このトンネルは、1930 年代まで地元の採炭所で使用され、第二次世界大戦中には防空壕になりました。戦後、その存在はしばらく忘れられていましたが、1965 年、シュロプシャー州鉱山クラブにて再発見され、調査が行われました。

トンネルは現在、入口から 100 ヤード (約 92 m) までは見学可能ですが、その先は鉄の門でふさがれています。ブロックのモルタル目地からタールが染み出ている様子や 2 つのタール井戸などを見ることができます。

鉄の門の向こう、トンネル口から約 270 ヤード (約 247 m) 付近になると、トンネルの幅は 2 倍になり対面通行が可能です。その先は天井が崩れ、漏水防止処理がされていない通路が続き、鮮やかな色の岩が転がっています。ここまで来ると、トンネルと言うより地下排水路でしかありません。395 ヤード (約 361 m) 地点には横道 (現在は閉鎖) があり、恐らくブリスツ・ヒルの下部坑道につながっていたのではないかと考えられています。そこから先は幅がかなり狭くなり、736 ヤード (約 673 m) から先へは進むことができません。しかし、まっすぐ続いていればブリスツ・ヒルの鉾山の上部坑道につながっているはずで

